

1 産業界（回答数 22 社）

問1 新型コロナウイルス感染拡大も踏まえた経営に関する課題認識及び今後の取組み

- ・働き方改革等働く環境への柔軟な対応
- ・DX化を含めた新様式への変革
- ・県内飲食市場の縮小環境に合わせた新しいビジネスモデルの構築
- ・テレワーク導入において新人教育のあり方
- ・感染症対策を含んだBCPの改正
- ・クラスター発生時の同業他社との支援体制構築等企業間連携
- ・顧客と直接面談する機会が減り機会損失となっている

問2 現在直面する具体的な課題

従業員の人材育成・確保やDXへの対応を課題とする企業が多い。

- 1 従業員の人材育成 12社（57.1%）
- 2 優秀人材の獲得 11社（52.4%）
- 3 デジタル技術の活用 10社（47.6%）

問3 新卒人材の採用にあたり重視する能力

専門的知識より人物の性質に求めるものがある傾向が高い

- 1 コミュニケーション能力 18社（81.8%）
 - 2 行動力・実行力 14社（63.6%）
- 向上心・探求心

問4 汎用的なスキルとして社員に修得を期待するもの

若年層と中堅層以上の世代で期待する能力が異なるため、世代や立場を考慮したきめ細やかな人材育成方法が期待されている。

（若年層）

- 1 コミュニケーション能力 21社（95.5%）
- 2 論理的思考力 15社（68.2%）
- 3 デジタルリテラシー 12社（54.5%）

（中堅層）

- 1 計画力・マネジメント能力・プロジェクト管理能力 17社（81.0%）
- 2 指導育成力 16社（76.2%）
- 3 リーダーシップ 15社（71.4%）

(ミドル・シニア層)

- 1 計画力・マネジメント能力・プロジェクト管理能力 21 社 (95.5%)
- 2 指導育成力 20 社 (90.9%)
- 3 コミュニケーション能力 13 社 (59.1%)

問5 従業員が大学等でリカレント教育を受ける場合どのような専門的知識を学ぶことを期待するか。
いずれの世代も経済学・経営学の期待の割合が高い。

(若年層)

- 1 データサイエンス・統計・情報・数理 10 社 (45.5%)
経済学・経営学
金融・財務・会計
IT 関連
広報・マーケティング

(中堅層)

- 1 経済学・経営学 12 社 (54.5%)
金融・財務・会計
- 3 人事・労務 10 社 (45.5%)
教育・人材開発

(ミドル・シニア層)

- 1 経済学・経営学 13 社 (59.1%)
人事・労務
- 3 教育・人材開発 9 社 (40.9%)

問6 大学連携の際大学等に期待すること

- ・専門的能力よりも基礎的な社会規範や倫理を理解し体現できる人間の育成
- ・企業からの相談窓口を設置してほしい
- ・どの学部・どの教授が何が得意なのか公開してほしい
- ・中途半端な産学連携でなくやるなら本気でやってほしい
- ・知識や研究を具体的に役立つものに発展させること
- ・現状の社会課題や意義に即した活動であること
- ・県内企業の強みを引き出し、県内外に発信してほしい
- ・県内就職を希望する学生への企業認知度の向上
- ・安定的な人材供給
- ・観光資源を生かした外国人の受け入れ強化を連携して行いたい

問7 自社の課題解決や共同研究等について大学等と連携して行いたい取り組み

- ・廃棄物の資源化・エネルギー化、グリーンエコビジネス
- ・混合廃プラスチック類の選別、マテリアルリサイクルの素材ごとの有効活用方法
- ・農産物流通、食文化の振興

- ・観光分野の知見の獲得
- ・働き方等のニーズ調査
- ・東南海地震発生時の産学連携や AI シミュレーター
- ・起業希望学生へのプレゼンの場提供や資金提供を含めた共同開発

問 8 県内大学等や県内大学等が関連する業種に関する課題や改善点

- ・県内各団体が一丸となった就活イベント。大学のキャリアセンターでのノウハウの蓄積
- ・観光分野の学生の育成
- ・地域活動には文系学生だけでなく理系の情報分野に強い学生の知からが求められている。
- ・地域課題から新しい技術やサービスを見出してほしい

2 高校生（回答数 670 名）

問 1 卒業後の進路希望地域

県外希望者が 65.2%と高校 2 年生の時点で県外志向が高い。

香川県内 232 人 (34.8%)、関西 167 人 (24.9%)、中国 78 人 (11.6%)、首都圏 60 (9.0%)
等

問 2 卒業後希望する進路

- 1 大学へ進学 438 人 (65.4%)
- 2 専門学校へ進学 128 人 (19.1%)
- 3 就職 37 人 (5.5%)

まだ決まっていない

大学進学希望者 438 人に限定すると県外希望者が 75.6%と 10 ポイント以上県外志向の割合が高まる。高等教育を希望する高校生ほど県外を希望している。

香川県内 107 人 (24.4%)、関西 133 人 (30.4%)、中国 66 人 (15.1%)、首都圏 45 (10.3%)
等

問 3 進学先を決める際に重視すること

希望する進学先が県内・県外問わず学びたい学部で進学先を決める傾向が強い。学びたい学部が県内にあれば県内進学となる可能性がある。

- 1 学びたい内容の学部学科がある 301 人 (68.9%)
- 2 大学等の特徴や強みが魅力的である 160 人 (36.6%)
- 3 希望の資格を取得できる 153 人 (35.0%)

問 4 （県外の大学・短大進路希望者に対して）県内大学がどうであつたら県内進学を考えるか

県外進学希望者の約半数は県内大学に学びたい学部があれば県内進学が選択肢となる可能性がある。とにかく県外進学を希望するものは 71 人 (21.4%)。

- 1 学びたい内容の学部学科がある 149 人 (44.9%)
- 2 学校の設備が充実する 80 人 (24.1%)
- 3 学費が安くなる 78 人 (23.5%)

問 5 高校在学中に学びたいこと

高校生は、県内大学を知る機会を求めている、専門科目だけではなく教養を深める学びを希望する傾向が高い。

- 1 県内大学の特徴を知り進路の参考にしたい 144 人 (29.9%)
- 2 選択肢に学びたいことはない 127 人 (26.3%)
- 3 文系理系にとらわれず教養を深めるために学びたい 109 人 (22.6%)

問 6 （大学・短大進路希望者 494 人に対して）進学を希望する学部学科

上位3分野についてはいずれも県内に存在する学部である。

- 1 経済・経営・商 117人 (23.7%)
- 2 理工系 53人 (10.7%)
- 3 保健・衛生・看護系 52人 (10.5%)

問7 (大学・短大進路希望者 493人に対して) 大学・短期大学に進学する理由

興味がある分野について大学で学びを深めたい希望が高い一方、希望する就職のために進学を選択している割合が高い。

- 1 興味関心があることを勉強したい 265人 (53.8%)
- 2 進学した方が就職に有利だから 202人 (41.0%)
- 3 希望する職業につくために大学卒業資格が必要 175人 (35.5%)

問8 (大学・短大進路希望者 492人に対して) 大学・短期大学に期待することがら

専門知識の取得や自身の個性にあった教育を期待する意見が多いが、質問項目は全て期待されたことがらであった。

- 1 専門的な知識をつけるための教育 472人 (95.9%)
- 2 個性を伸ばすことができる教育 458人 (93.1%)
- 3 地域や企業、社会と関わる機会 413人 (83.8%)
- 4 文系理系にとらわれず幅広い教養や総合的に判断する力を身につける 402人 (81.7%)
- 5 社会人や留学生等多様な交流の機会 371人 (75.4%)
- 6 数カ月単位での長期インターンシップ 362人 (73.2%)

※ いずれの間についても「強く期待する」「期待する」の人数

問9 (大学・短大進路希望者 492人に対して) 県内大学・短期大学に期待することがら

県内大学等に限定せず質問した問8よりも全体的に期待する割合が減少し、特に専門知識の取得や自身の個性にあった教育を期待する割合の減少幅が大きい (▲6.3ポイント)。

- 1 専門的な知識をつけるための教育 441人 (89.3%)
- 2 個性を伸ばすことができる教育 438人 (89.2%)
- 3 文系理系にとらわれず幅広い教養や総合的に判断する力を身につける 394人 (80.1%)
- 4 地域や企業、社会と関わる機会 386人 (78.3%)
- 5 社会人や留学生等多様な交流の機会 347人 (70.5%)
- 6 数カ月単位での長期インターンシップ 346人 (70.2%)

※ いずれの間についても「強く期待する」「期待する」の人数

問10 (大学・短大進路希望者 492人に対して) 進学先を選ぶ際に重視する情報

高校の先生、両親や同級生等からの情報よりも、本人が直接大学等から情報を取得する傾向が強い。

- 1 大学案内などのパンフレット 311人 (63.2%)
- 2 大学H.P.などのインターネット情報 293人 (59.6%)

3 オープンキャンパスや説明会 249 人 (50.6%)

問 11 (大学・短大進路希望者 493 人に対して) 大学等卒業後、就職したい職業

大学等卒業後の進路を決めていない者が最も多い。決まっている者の上位は医療、福祉、教員であり、いずれの職業も進学する学部が決まれば、その学部を卒業後の職業が定まりやすいため上位となった可能性がある。

- 1 まだ決めていない 125 人 (25.4%)
- 2 医療・福祉関係職 114 人 (23.1%)
- 3 教員 89 人 (18.1%)

問 12 県内大学の改善点

理学部、医療スポーツ系、薬学部、地学、管理栄養士取得等希望する学部学科を増やしてほしいという意見が多い。

問 13 将来的に香川県での生活を希望しているか

全体の 56.6%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択。

- そう思う 136 人 (27.4%)
- どちらかといえばそう思う 145 人 (29.2%)
- どちらかといえばそう思わない 115 人 (23.2%)
- そう思わない 100 人 (20.2%)

県外進学希望者 361 人においても、164 人 (45.4%) が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択しており、将来的に香川県での生活を希望している者の割合は低くない。県外進学希望者で将来的に香川県での生活を希望する者 148 人について、どうなったら県内進学を考えるかの回答上位は下のとおりであり、県内大学等では学びたい専攻を選択できない意見が多い。

- 1 学びたい内容の学部学科ができる 84 人 (56.8%)
- 2 希望の資格を取得できるようになる 47 人 (31.8%)
- 3 受けたい教育プログラムがある 40 人 (27.0%)

問 14 (「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択した者に対して) 将来的に香川県で生活したい理由

香川県で生活したい理由は本人が香川県に慣れ親しんでいるとの意見が最も多く、進学先が県内・県外でもその傾向は同じであった。

- 1 香川県での生活に慣れ親しんでいる 222 人 (79.9%)
- 2 家族の近くで生活したい 128 人 (46.0%)
- 3 香川県が好き 94 人 (33.8%)

問 15 (「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」を選択した者に対して) 将来的に香川県で暮らしたいと思わない理由

都会で生活したいを理由とするものが半数以上となっている。次に香川県での生活が不便、希望する仕事がない等香川県では望む生活ができない理由が続いている。

- 1 都会で生活したい 110 人 (52.4%)
- 2 香川県での生活が不便 83 人 (39.5%)
- 3 希望する企業や仕事がない 68 人 (32.4%)

問 16 将来的に県内企業に就職したいか

就職を希望する地域をまだ決めていない者が最も多い (26.4%) が、高校生の時点では県内企業を選択肢としている者も少なくない (47.6%)。

県内企業に就職したい 108 人 (21.8%)

県内の企業も選択肢である 128 人 (25.8%)

県外で就職したい 105 人 (21.2%)

就職を希望していない 24 人 (4.8%)

まだ決めていない 131 人 (26.4%)

問 17 就職先を決める際に重視すること

就職先の待遇（給料）や就職先の安定度も上位にあるが、自分のやりたい仕事があるかがそれを大きく上回っている。就職希望先が県内・県外、進学希望先が大学短大・それ以外いずれであってもその傾向は同じである。

- 1 就職先に自分がやりたい仕事がある 446 人 (69.4%)
- 2 就職先の給料が高い 279 人 (43.4%)
- 3 就職先の経営が安定している 266 人 (41.4%)

問 18 （県外で就職したい者 103 人へ）県内就職を希望しないのは県内企業にどのようなイメージがあるからか

とにかく県外就職を希望する者が最も多いが、県内企業にやりたい仕事がない、将来性がないが次に多い。

- 1 県内企業のイメージに関わらず県外で就職したい 65 人 (63.1%)
- 2 県内企業に自分がやりたい仕事がない 29 人 (28.2%)
- 3 県内企業に将来性がない 16 人 (15.5%)

問 19 新型コロナウイルス感染拡大が進路選択にどのような影響があったか

行事参加への影響が多かった。地元志向が高まったとの意見は 69 人 (10.5%) だった。

- 1 オープンキャンパスや学校体験に参加できなかった 295 名 (44.8%)
- 2 影響はない 254 名 (38.6%)
- 3 休校等による授業の遅延等学力への影響 99 人 (15.0%)

3 高校生の保護者（回答数 452 名）

問 1 子どもの卒業後の保護者が希望する進路地域

保護者の方が高校生本人より県内希望が 10 ポイント程度高い。子どもが女性の場合の方が県内希望が 10 ポイント程度高い。また、とくにこだわらない（本人に任せている）方が約 30%存在する。

香川県内 205 人（45.4%）、とくにこだわらない（本人に任せている） 133 人（29.4%）、関西 51 人（11.3%）、中国 36 人（8.0%）、首都圏 10（2.2%）等

問 2 保護者が希望する卒業後の進路

大学進学希望者の割合について、子どもの性別で大きな差は見受けられない。子どもの進路希望と保護者の進路希望についても大きな不一致は見受けられない。

- 1 大学へ進学 260 人（57.5%）
- 2 とくにこだわらない（本人に任せている） 75 人（16.6%）
- 3 専門学校へ進学 61 人（13.5%）

問 3 進学先を決める際に重視すること

保護者が希望する進路地域が県内・県外であることを問わず、子どもが希望する進学先であることを重視する傾向が強い。

- 1 子ども本人が希望する進学先である 334 人（93.3%）
- 2 子どもに学ばせたい内容の学部学科がある 133 人（37.2%）
- 3 学費が安い 119 人（33.2%）

<その他の意見欄>

- ・本人が自主性をもって学べる大学かどうか
- ・本人が目的を持って選んでいること
- ・就職につながる指導があること
- ・知り合う仲間が多様となる大都市であること
- ・学業以外の相談ができる場所がある
- ・大学周辺の安全性、交通の利便性
- ・学費、居住地の物件等経済面 等

問 4 （保護者の希望が県外の大学・短大である者に対して）県内大学がどうであったら保護者が県内進学を考えるか

保護者が県外進学を希望している理由は、子ども本人が県外進学を希望している場合が多い。

- 1 子ども本人が県内進学を希望するようになる 130 人（61.0%）
- 2 子どもに学ばせたい内容の学部学科がある 99 人（46.5%）
- 3 お子様に取得させたい資格が取得できるようになる 63 人（29.6%）

<その他の意見欄>

- ・どんな授業内容なのか伝わってこない大学が多い
- ・国立の薬学部、芸術学部を希望している

- ・中高大一貫校が欲しい
- ・コロナ禍での情報発信が不足しているので工夫してほしい
- ・偏差値と違うところでいいところをアピールしてほしい
- ・理系分野の幅が狭く学科も少ないので増やしてほしい
- ・大卒の就職先が厳しい
- ・スポーツ施設や文化施設が少ない
- ・就職まで自宅で過ごすのはもったいない
- ・私立大学の充実
- ・管理栄養士の育成校
- ・県内大学では選択肢が少なすぎる
- ・香川大学とその他の大学の偏差値の差が大きい 等

問5 高校在学中に学ばせたいこと

高校生同様、専門科目だけではなく教養を深める学びを希望する傾向が高い。

- 1 社会の課題を知り、どう解決するか考える手法を学ばせたい 187 人 (53.1%)
- 2 文系理系にとらわれず教養を深めるために学びたい 144 人 (40.9%)
- 3 県内大学の特徴を知り、進路の参考にさせたい 119 人 (33.8%)

<その他の意見欄>

- ・コロナでなければ海外留学させたかった
- ・失敗しても前へ踏み出す力が持てるような内容の授業
- ・行きたい大学の授業を受けられる時間があるといい
- ・職場見学
- ・一般教養、マナー等
- ・探究型の学習
- ・公立高校でも受験に特化した授業
- ・コロナ禍でも思い出となるような行事
- ・失敗経験
- ・資格と就職と大学の学科の関連性
- ・進学校でも地域の課題やボランティアなど勉強以外での学びができるようになれば香川のことを大事に考えるのではないか
- ・アルバイトを許可してもらい社会経験を学ばせたい
- ・ネイティブ英語のオンライン授業
- ・金融教育の可能な教員の育成
- ・県内企業にどのような職業があるか 等

問6 (大学・短大進路希望者 358 人に対して) 進学を希望する学部学科

子ども本人に任せている意見が多い。

- 1 とくにこだわらない(本人に任せている) 123 人 (34.4%)
- 2 経済・経営・商 39 人 (10.9%)

3 理工系 32 人 (8.9%)

問7 (大学・短大進路希望者 357 人に対して) 大学・短期大学に進学させたい理由

高校生本人に比べて保護者が「様々な人との交流を希望している割合が 20 ポイント以上高い。

- 1 子どもが興味関心があることを勉強させたい 216 人 (60.5%)
- 2 子どもに様々な人と交流してもらいたい 144 人 (40.3%)
- 3 子どもが希望する職業につくために大学卒業資格が必要 113 人 (31.7%)

<その他の意見欄>

- ・学歴社会だから
- ・様々な人間関係の経験
- ・専門的な仕事についてほしいから 等

問8 (大学・短大進路希望者 357 人に対して) 大学・短期大学に期待することがら

高校生本人と同様専門知識の取得や自身の個性にあった教育を期待する意見が多いが、質問項目は全て期待されたことがらであった。

- 1 個性を伸ばすことができる教育 346 人 (96.9%)
- 2 専門的な知識をつけるための教育 345 人 (96.6%)
- 3 文系理系にとらわれず幅広い教養や総合的に判断する力を身につける 330 人 (92.7%)
- 4 地域や企業、社会と関わる機会 330 人 (92.4%)
- 5 社会人や留学生等多様な交流の機会 319 人 (89.4%)
- 6 数カ月単位での長期インターンシップ 286 人 (80.1%)

※ いずれの間についても「強く期待する」「期待する」の人数

<その他の意見欄>

- ・ボランティア活動に関わる時間
- ・資格取得等スキル向上
- ・専門的な知識の習得
- ・インターンシップ制度の充実
- ・コロナ禍での人との交流充実 等

問9 (大学・短大進路希望者 358 人に対して) 県内大学・短期大学に期待することがら

高校生本人にあった県内大学等に限定せず質問した問8よりも全体的に期待する割合が減少するという傾向は保護者には見受けられなかった。

- 1 専門的な知識をつけるための教育 337 人 (94.1%)
個性を伸ばすことができる教育
- 3 文系理系にとらわれず幅広い教養や総合的に判断する力を身につける 329 人 (91.9%)
- 4 地域や企業、社会と関わる機会 324 人 (90.5%)
- 5 社会人や留学生等多様な交流の機会 306 人 (86.0%)
- 6 数カ月単位での長期インターンシップ 290 人 (81.2%)

※ いずれの間についても「強く期待する」「期待する」の人数

<その他の意見欄>

- ・地域との交流がある授業
- ・よりグローバルな大学となる
- ・時代の流れにあった新しい視点を香川から発信できる人になってほしい。大学関係者の人格が大切。
- ・医療系の学科、薬学部、芸術関係の学科
- ・地域の魅力発信等地元愛の育成を期待 等

問 10 (大学・短大進路希望者 357 人に対して) 進学先を選ぶ際に保護者が重視する情報
高校生本人と同様高校等からの情報よりも、直接大学等から情報を取得する傾向が強い。

- 1 オープンキャンパスや説明会 214 人 (59.9%)
- 2 大学 H.P. などのインターネット情報 196 人 (54.9%)
- 3 大学案内などのパンフレット 161 人 (45.1%)

問 11 (大学・短大進路希望者 357 人に対して) 大学等卒業後、子どもに就職してほしい職業
半数が本人に任せているとの回答。

- 1 特にこだわらない(本人に任せている) 178 人 (49.9%)
- 2 官公庁・公社・団体 92 人 (25.8%)
- 3 医療・福祉関係職 90 人 (25.2%)

問 12 県内大学の改善点

- ・知らない高等教育機関がある
- ・理系の分野の幅が狭く学科も少ない
- ・管理栄養士を取得できる大学がない
- ・都会の大学と相互交流や編入ができる仕組みがあればよい
- ・希望の学部学科がなかったり希望通りの就職には香川は不利
- ・偏差値に極端な差がある
- ・私立大学の就職実績向上
- ・大学の特徴や強みがわかりにくいのもっと具体的な情報が欲しい
- ・香川県は就職するにはいい会社が少ない

問 13 将来的に子どもが香川県での生活をすることを保護者が希望しているか

全体の 82.4%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択。高校生本人より 25 ポイント程度高い。

- そう思う 139 人 (38.8%)
- どちらかといえばそう思う 156 人 (43.6%)
- どちらかといえばそう思わない 47 人 (13.1%)
- そう思わない 16 人 (4.5%)

県外進学希望者 247 人においても、160 人 (64.8%) が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択しており、高校生同様保護者も将来的に香川県での子どもの生活を希望している者の割合は低くない。県外進学希望者で将来的に香川県での生活を希望する者 160 人について、どうなったら県内進学を考えるかの回答上位は下のとおりであり、県内大学等では学びたい専攻を選択できない、就職実績がない等の意見が多い。

- 1 子ども本人が県内の進学を希望するようになる 97 人 (80.6%)
- 2 学ばせたい内容の学部学科ができる 79 人 (49.4%)
- 3 優れた就職実績が出るようになる 53 人 (33.1%)

問 14 「「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択した者に対して）将来的に子どもに香川県で生活してほしい理由

子どもに香川県で生活してほしい理由は子供の援助ができる、子どもと近くで生活したいとの意見が多く、進学先が県内・県外でもその傾向は同じであった。

- 1 子どもの生活の援助ができる 158 人 (53.7%)
- 2 子どもと近くで生活したい 157 人 (53.4%)
- 3 子どもにとって香川県の生活があっていると思う 75 人 (25.5%)

<その他の意見欄>

- ・近くにいた方が援助しやすいが、魅力的な企業がない
- ・香川県は天候も安定し災害が少ないため、よい。
- ・地元貢献してほしい。
- ・地元の方が就職しても知り合いがたくさんいて心強い

問 15 「「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」を選択した者に対して）将来的に香川県で生活させたいと思わない理由

県外で自立を望む意見が半数程度となっている。

- 1 県外で自立して生活してほしい 27 人 (45.0%)
- 2 企業数や求人数が少ない 18 人 (30.0%)
- 3 本人が県外の生活を希望している 16 人 (26.7%)

<その他の意見欄>

- ・いろいろな人と出会って人間的に成長してほしい
- ・自分のことを知らない土地で自分らしさを発揮してほしい

問 16 将来的に県内企業に就職してほしいか

本人に任せている者が最も多い (38.8%) が、就職で県内を選択肢としてほしい意見は半数以上と多い。

県内企業に就職してほしい 104 人 (29.1%)

県内の企業も選択肢としてほしい 104 人 (29.1%)

県外で就職してほしい 6 人 (1.7%)

就職を希望していない 5 人 (1.4%)

特にこだわらない（本人に任せている） 139 人（38.8%）

問 17 就職先を決める際に重視してほしいこと

高校生本人同様、就職先の待遇（給料）や就職先の安定度も上位にあるが、自分のやりたい仕事があるかそれを大きく上回っている。就職希望先が県内・県外、進学希望先が大学短大・それ以外いずれであってもその傾向は同じである。

- 1 就職先に自分がやりたい仕事がある 344 人（77.3%）
- 2 就職先の経営が安定している 207 人（46.5%）
- 3 子どもの能力・専門性が生かせる 168 人（37.8%）

<その他の意見欄>

- ・自分が楽しいと思える仕事についてほしい
- ・人との関りを通して個々の能力を最大限引き出してほしい
- ・効率やコスパより安全を優先してほしい
- ・したい仕事につく人もいるが続けられるのかといった点を見極めてほしい
- ・柔軟な働き方ができる職場
- ・自分自身の能力に対して楷書の理想と釣り合いが取れて長く無理なく勤められそうな会社を選んでほしい
- ・新人育成に力を入れている企業 等

問 18 （子どもの県外就職を希望する者 6 人へ）子どもの県内就職を希望しないのは県内企業にどのようなイメージがあるからか

子どもの県外就職を希望する者が少ないが意見は次のとおり。

- 1 県内企業の給料が低い 3 人（50.0%）
- 2 県内企業の経営が安定していない 2 人（33.3%）
 - 県内企業に将来性がない
 - 県内企業では柔軟な働き方ができない
 - 県内企業の規模が小さい
 - 県内企業の知名度が低い

問 19 新型コロナウイルス感染拡大が進路選択について保護者にどのような影響があったか

地元志向が高まったとの意見は高校生本人に比べて 15 ポイント程度高かった。

- 1 保護者がオープンキャンパスや学校体験に参加できなかった 185 名（41.5%）
- 2 地元の学校に進学してほしい気持ちが強くなった 112 人（25.1%）
- 3 影響はない 105 名（23.5%）

<その他の意見欄>

- ・コロナにより卒業する年数が増えたりはしないでほしい。
- ・オープンキャンパスに参加できず情報の多い県内大学に進学する可能性が高い。
- ・学校が休校になったり外出機会が減り子供の精神的苦痛が気に係る。もっとのびのびと学生生活

を送らせてあげたかった。

- もともと近くの大学進学を希望していたが、周囲の地元志向が強くなり受験倍率が高くなり心配が増えた。
- 感染しないようにバイトもできず、寮内でも交流がなくサークル活動も中止になり思った生活ができなかった。
- 自粛により友人との交流が減り社会性の涵養ができず将来への視野が広げにくくなっていることが進路選択に影響していると感じる
- オンラインでの授業ではばからしい。大学の意味がない 等

4 県内自治体（回答数 17 市町）

問 1 優先順位が高い政策課題

- 1 地域活性化 12 者 (70.6%)
- 2 移住・定住促進 11 者 (64.7%)
少子化対策
- 4 災害対策・防災 6 者 (35.3%)
教育
デジタル化 (ICT・IoT・AI の利活用等)

問 2 新型コロナウイルス感染拡大に関する課題

- 1 社会経済活動の維持・回復 13 者 (76.5%)
- 2 ICT・IoT・AI を利活用した事務の効率化 9 者 (52.9%)
- 3 医療提供体制の整備・充実 8 者 (47.1%)
デジタル化の進展や地方回帰の意識の高まりなど人々の生活行動や意識の変化への対応

問 3 どのような分野で高等教育機関と連携していきたいか

- 1 地域活性化 15 者 (88.2%)
- 2 移住・定住促進 10 者 (58.8%)
観光客の誘致・地域 PR 10 者 (58.8%)
- 4 教育 9 者 (52.9%)
デジタル化 (ICT・IoT・AI の利活用等)

問 3-2 高等教育機関と連携を期待する具体的な取組み

- ・交流人口や関係人口の拡大のため、市の魅力発信及び域学連携による地域活性化
- ・高齢者等のデジタル支援施策への学生の参加
- ・地域のデジタル化等の地域活性化策
- ・学生の柔軟な発想力による魅力の掘り起こし
- ・地場産品等の情報発信やブランド力強化による 6 次産業化の推進
- ・図書館や庁舎等を活用した企画提言（地元高校生の課題解決型の授業実施等）
- ・香川短大とのダイシもち麦のレシピ本の共同制作
- ・香川大学工学部とのオリジナルアプリ「カタパン」の実証実験
- ・香川大学経済学部との「讃岐提灯」の地元小学校での出前授業
- ・かがわ DXLab を通じた新たなサービス創出のための共同研究

問 4-1 高等教育機関のリカレント教育で自職員を含む社会人に育成を期待する能力

- 1 計画力・マネジメント能力・プロジェクト管理能力 15 者 (88.2%)
- 2 リーダーシップ 11 者 (64.7%)

3 コミュニケーション能力 10 者 (58.8%)

情報・データ分析能力

問4-2 高等教育機関に期待すること

- ・学生等の人材やノウハウを生かした過疎地域の活性化
- ・ICT や AI 等を活用した観光振興策、住民サービスの向上等
- ・自治体や地元企業等へ就職を希望する人材の提供
- ・地元自治体を学びの場のフィールドとしてもらうことによる交流人口の増加
- ・地域の独自性を生かしたまちづくりに係る共同研究

問5 自治体が採用する人材に求める能力

1 コミュニケーション能力 11 者 (64.7%)

行動力・実行力

向上心・探究心

4 柔軟性・環境適応力 10 者 (58.8%)

問6 貴自治体の存する地域にはどのような人材が必要か

1 行動力・実行力 12 者 (75.0%)

2 リーダーシップ 11 者 (68.8%)

3 計画力・マネジメント能力・プロジェクト管理能力 10 者 (62.5%)

5 県内大学生（回答数 777 人）

問1 <県内出身者に対して>現在の大学等に進学した理由

自身が学びたい教育から選択した意見が多いが、就職を見据えて選択した者も多い

- 1 学部や学科が志望に合っていた 293 人 (66.4%)
- 2 自宅から通学可能だった 250 人 (56.7%)
- 3 将来就きたい職業から考えて選択した 193 人 (43.8%)

<その他の意見欄>

- ・推薦、試験制度等の理由
- ・家庭、金銭的な事情
- ・高校の先生や家族の意見
- ・就職に有利
- ・取得する資格 等

問2 <県外出身者に対して>現在の大学等に進学した理由

国公立大学の県外出身者は入試条件で進学を決めた者が多いのが特徴的（香川大学の 70%、保健医療大学の 100%の学生が理由として挙げている）

- 1 学部や学科が志望に合っていた 207 人 (64.3%)
- 2 入試のレベルや試験科目が自分の学力に合っていた 179 人 (55.6%)
- 3 将来就きたい職業から考えて選択した 104 人 (32.3%)

<その他の意見欄>

- ・地域活性化の活動が活発だったから
- ・担任の薦め
- ・興味のある研究を行う教授がいたから
- ・推薦、試験制度等の理由
- ・祖父母の家があった
- ・歴史がある
- ・留学ができる
- ・学科の特徴により学費を稼ぎながら学ぶことができるから 等

問3 卒業後につきたい職業

官公庁・公社・団体を選択した 164 人のうち香川大学生が 103 人。教員を選択した 146 人のうち香川大学生が 51 人、高松大学生が 33 人と多数を占めている。

- 1 医療・福祉関係職 186 人 (24.0%)
- 2 官公庁・公社・団体 164 人 (21.2%)
- 3 教員 146 人 (18.8%)

問4 将来的に県内企業に就職したいか

県外高校出身者の県外企業への就職希望割合は高いが、岡山、四国より遠方出身者ではその割合が

特に高い（48.9%。県内出身者は県外企業希望が10.3%）

- 1 県内の企業に就職したい 257 人（33.1%）
- 2 県内の企業も選択肢である 205 人（26.4%）
- 3 県内企業への就職は希望していない 187 人（24.1%）

問5 就職先を決めるときに重視すること

企業の待遇よりも仕事の内容が希望するものかを重視する者が多い。就職希望先が県内・県外いずれも傾向は同じ。

- 1 就職先に自分がやりたい仕事がある 489 人（66.4%）
- 2 就職先の休暇が充実している等仕事と生活の両立ができる 358 人（48.6%）
- 3 就職先に将来性がある 247 人（33.6%）

<その他の意見欄>

- ・地元での就職であること
- ・自分自身が成長・活躍できる環境であること
- ・企業の規模が小さいことによって裁量権が大きい企業であること
- ・やりがいを感じるかどうか
- ・社内の雰囲気、福利厚生、給料
- ・香川県の人の役に立てる仕事につきたい
- ・勉強したことを生かしたい 等

問6 県内企業を就職先として希望しないのはどのようなイメージがあるからか

とにかく県外で就職したい者が多いが、（問5就職先を決めるときに重視することで高位である）やりたい仕事が県内企業にないとの意見も多い

- 1 県内企業のイメージに関わらず県外で就職したい 127 人（75.1%）
- 2 県内企業に自分がやりたい仕事がない 32 人（18.9%）
- 3 県内企業の規模が小さい 17 人（10.1%）

<その他の意見欄>

- ・ただ東京に行きたいから
- ・地元でないから（親のそばにいたい、出産等を考えて実家から遠いと不便）
- ・香川県に永住するほどの魅力を感じられないから
- ・東京にある企業に就職し、スキルを身につけたい
- ・香川県以外の土地に住んでみたい
- ・県内では災害の被害が大きくなりやすいので住みたくない 等

問7 進路を決めるにあたって重視するのはどこからの情報か

口コミやインターネット情報よりも大学や企業から直接受け取る情報を重視する傾向がある。

- 1 教員や大学等の就職支援部門の情報 480 人（62.1%）
- 2 合同説明会や個別企業説明会 249 人（32.2%）
- 3 インターンシップでの体験 246 人（31.8%）

問 8 自分の大学等の長所

施設設備を長所として挙げた割合が高いのは徳島文理、四学、香川短大及び香川高専。講義科目や教員を長所として挙げた割合が高いのは国公立大学。

- 1 施設・設備 237 人 (31.1%)
- 2 講義科目 216 人 (28.3%)
- 3 教員 199 人 (26.1%)

<その他の意見欄>

- ・障害のある学生へのサポート体制等学ぶ機会を広く提供できており、学生同士でも助け合いが行われている。
- ・地域の人とも交流がある
- ・規模が小さいため、学生と先生の距離が近い
- ・特にない 等

問 9 自分の大学等の短所

立地を短所として挙げた割合が高いのは香川大、徳島文理、高松大、高松短大、香川高専。施設・設備を短所として挙げた割合が高いのは香川大、保健医療大、高松大、高松短大。学生の意欲・学力を短所として挙げた割合が高いのは香川大、徳島文理、四学、高松大、香川短大、香川高専。

- 1 立地 286 人 (35.3%)
- 2 施設・設備 240 人 (31.9%)
- 3 学生の意欲・学力 236 人 (31.3%)

<その他の意見欄>

- ・偏差値を評価基準としている人たちから社会的に低く見られている
- ・学内のサポート体制が実態の人間関係が良好でない
- ・感染症対策・衛生への配慮が十分でない
- ・設備が古い
- ・大学周辺に学生生活を充実する施設がない
- ・一般教養科目のレベルが低い
- ・奨学金制度を公平・明確な制度にしてほしい
- ・教員への意見が複数 等

問 10—1 自分の大学等について、専門的な知識を身につけるための教育プログラムが提供されている

- 1 ややそう思う 361 人 (46.6%)
- 2 そう思う 353 人 (45.6%)

問 10—2 自分の大学等について、総合的判断力を身につけるための教育プログラムが提供されている

- 1 ややそう思う 350 人 (45.3%)
- 2 そう思う 252 人 (32.6%)

問 10-3 自分の大学等について、個性を伸ばすための教育プログラムが提供されている

- 1 ややそう思う 350 人 (45.2%)
- 2 そう思う 223 人 (28.8%)

問 10-4 自分の大学等について、社会人や留学生等多様な人々と交流して学ぶ機会がある

そう思う及びややそう思うで回答割合の 6 割を超える大学等は香川短大及び香川高専。

- 1 あまりそう思わない 288 人 (37.3%)
- 2 ややそう思う 267 人 (34.5%)

問 10-5 自分の大学等について、大学等の研究や教育を通して、地域や企業、社会と関わる機会がある

そう思う及びややそう思うで回答割合の 6 割を超える大学等は香川大、四学、高松大、香川短大及び香川高専

- 1 ややそう思う 338 人 (43.8%)
- 2 あまり思わない 224 人 (29.1%)

問 10-6 数カ月単位での長期インターンシップ制度に参加する機会がある

そう思う及びややそう思うで回答割合の 5 割を超える大学等はなかった

- 1 あまりそう思わない 292 人 (37.8%)
- 2 ややそう思う 216 人 (28.0%)

問 10-7 生涯にわたる人間関係の構築がある

いずれの大学等もそう思う及びややそう思うで回答割合の 6 割を超える

- 1 ややそう思う 370 人 (47.9%)
- 2 あまり思わない 187 人 (24.2%)

<その他県内大学等へ期待することについて自由意見欄>

- ・ 社会人も視野に入れたカリキュラムの充実
- ・ 感染症対策
- ・ オンライン授業の充実
- ・ 情報科目の教育充実
- ・ インターンシップや企業説明会の充実と就職活動への参加への配慮
- ・ 香川県ならではの授業を増やしてほしい
- ・ 他県への就職希望者への対応の充実
- ・ 県外学生への支援
- ・ 他大学との交流の充実
- ・ 地域貢献活動の充実
- ・ 私立大学の魅力の向上 等

問 11 新型コロナウイルス感染拡大によって進路選択等にどのような影響があったか

現在の修学環境への影響の割合が高く、就職先や進学先への影響は比較的少ない。

- 1 休校や自宅学習対応等学力に影響があった 256 人 (33.2%)
- 2 学費等金銭的な部分が気になるようになった 222 人 (28.8%)
- 3 企業訪問やインターンシップ等に参加できなかった 182 人 (23.6%)

<その他の意見欄>

- ・学生時に県外や海外経験を積みたかったができなかった
- ・オンラインと対面が混在し混乱した
- ・就職活動でリモート面接が多くなりより多くの企業と面接できた
- ・実習の機会が減った
- ・外出の機会が減り、資格取得ができた 等